

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:68

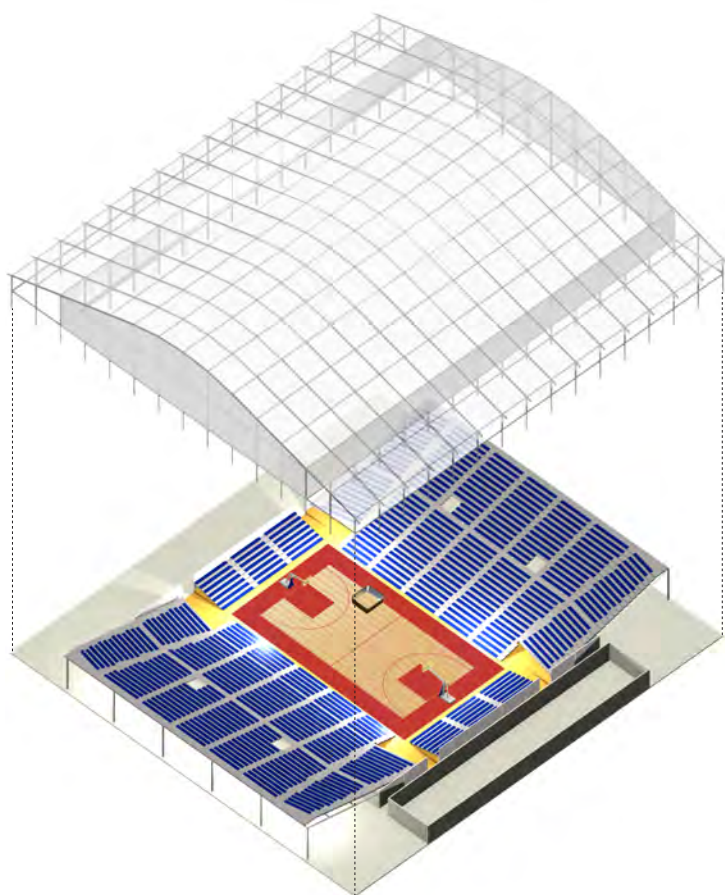


2015 年 11 月

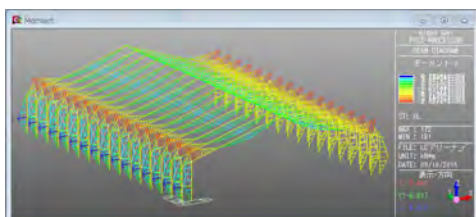
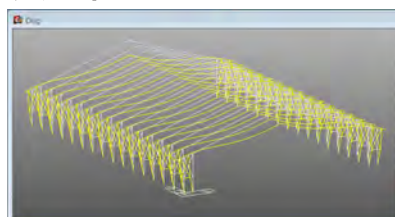
NPO 法人 日本バスケットボール振興会

安全性、経済性を追求した LCアリーナ!!

※LCとはLow Costの略称



安全性 3次元解析による構造最適化と安全性確保



経済性を追求

	5000人LCアリーナ	一般的な5000人アリーナ
席数	5,214席	6000～7000席
延床面積	5,250～5,900㎡	20,000～30,000㎡
工期	2ヶ月程度	2～2年半程度
工事費	10億程度	100～230億



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。



目 次

○ 女子日本代表アジア選手権大会2連覇！！	3
リオ・オリンピック出場権獲得	
○ 男子日本代表はアジア4位に	9
リオ・オリンピック世界最終予選出場権獲得	
○ 車椅子男子日本代表リオ・パラリンピック出場	13
おめでとう！全員バスケで掴んだリオ出場権	
○ 秋の講演会・交流会開催	16
JBA専務理事 大河正明氏	
○ 男子新リーグ名称は「Bリーグ」	22
参入予定クラブの所属リーグを決定	
○ バasketボール・ハンドブック	普及部 25
振興会保存から国会図書館へ	
○ 梶川三枝氏を招聘し勉強会開催	総務部 27
Basketボール界のマーケティング	
○ 会員だより	
モーゼになる日	油井 康 30
Basketボール湘南だより（その12）	中瀬達雄 32
38年間の高校教員生活を終えて（その5）	須田武志 34
○ 熱中症予防声かけで表彰される	総務部 37
環境省ひと涼みアワード2015	
○ NBL・TKbjリーグ交流戦	38
DREAM GAMES はNBLが圧勝	
○ トップリーグ2015-2016シーズン開幕	39
○ 訃報・追悼文	42
○ プラザ こぼればなし	43

女子日本代表アジア選手権大会 2 連覇 !!

リオ・オリンピック出場権獲得

[編集部]

去る 8 月 29 日から中国・武漢で開催された第 26 回 FIBA ASIA 女子選手権大会において、日本代表は予選から決勝トーナメントまで負けなしの成績でアジアを連続制覇した。この大会での優勝は 2016 年開催のリオデジャネイロ・オリンピック出場へ向けて、日本の団体競技で最初となるアジア代表出場権を勝ち取る素晴らしい成績である。

日本にとってアウェイとなる中国で開催されたこの大会の決勝戦では、開催地中国との対戦となったが、日本は中国を圧倒して優勝、久しぶりに日本のバスケットボール界に明るい展望を切り拓いた。

昨年末から始まった FIBA による国際大会出場禁止処分の中、一時は出場さえ危ぶまれた日本代表だったが、JBA 新会長をはじめとする各役員の尽力によって 6 月には処分解除の見通しが立ちチームは代表合宿を再開した。短い準備期間にも拘わらず内海ヘッドコーチのもと懸命に強化に励み、選手達の熱い思いも相まって今回の快挙を達成した努力に対して、心から祝意と敬意を表したい。



写真提供 JBA

女子日本代表チーム

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
チームリーダー	高橋 雅弘	日本協会
ヘッドコーチ	内海 知秀	日本協会
アシスタントコーチ	梅畠 英毅	山梨学院大学
アシスタントコーチ	トム・ホーバス	J X-E N E O S サンフラワーズ
マネージャー	山崎 舞子	J X-E N E O S サンフラワーズ

<選手>

NO	選手名	P	身長 c m	体重 kg	年齢 歳	所 属
4	三谷 藍	F	181	69	37	富士通レッドウェーブ
5	宮澤 夕貴	S F	182	70	22	J X-E N E O S サンフラワーズ
6	間宮 佑圭	C	184	75	25	J X-E N E O S サンフラワーズ
7	栗原 三佳	S G	176	67	26	トヨタ自動車アンテロープス
8	高田 真希	P F	183	78	25	デンソーアイリス
9	山本 千夏	S G	176	68	24	富士通レッドウェーブ
10	渡嘉敷 来夢	P F	192	85	24	J X-E N E O S サンフラワーズ
11	篠崎 滢	S G	167	66	23	富士通レッドウェーブ
12	吉田 亜沙美	P G	165	61	27	J X-E N E O S サンフラワーズ
13	町田 瑠唯	P G	162	57	22	富士通レッドウェーブ
14	本川 紗奈江	S G	176	65	23	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック
15	王 新朝喜	C	189	80	27	三菱電機コアラーズ
	平 均		178	70	25	

*年齢所属は 2015 年 8 月 21 日現在

この大会の競技方式は、参加国のランキングによってレベルⅠグループとレベルⅡグループに分けて総当たりのリーグ戦を行い、レベルⅠにおいては上位4チームによるトーナメント戦で順位を決定し、優勝国には 2016 リオ・オリンピックへの出場権が与えられ、2・3位国にはオリンピック世界予選への出場権が与えられる。日本が属するレベルⅠグループの参加国は下記の通り。

レベルⅠグループ

日本、中国、韓国、チャイニーズ・タイペイ、インド、タイ

レベルⅠグループ総当たりリーグ戦では、各チームとも8月29日から9月2日まで5連戦となり、季節がら体力面においてもハードな戦いとなったが、日本はこれをも克服して予選ラウンド全勝という快挙によって決勝トーナメントへ進んだ。

[予選ラウンド成績]

8月29日 韓国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	13	18	15	13	59
韓 国 ●	13	17	15	8	53

予選ラウンド初日、日本は2年前のアジア選手権で準優勝の韓国と対戦、開始早々韓国に先制され一時は0対7とリードされたが、開始3分#12 吉田の速攻から#14 本川がレイアップを決め初得点、その後は厳しいディフェンスで相手ミスを誘って得点を重ね同点に追いつく。その後は一進一退の攻防が続き、前半を終えて日本が1点のリード、第3ピリオド日本は#6 間宮や#10 渡嘉敷のインサイド陣が踏ん張って一時44対34の10点差と

するが、その後韓国も連続 3 P 成功によって得点し、点差は 1 点のまま第 4 ピリオドへ入る。最終ピリオド日本は、#6 間宮の連続得点でリードを伸ばし開始 3 分半には 8 点のリードを奪う。対する韓国も 3 P で対抗したが日本は相手のファウルを誘ったフリースローを確実に決めて得点を伸ばし、6 点差で逃げ切って初戦を白星で飾った。

8 月 30 日 インド戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	32	31	25	43	131
インド ●	9	12	6	4	31

8 月 31 日 チャイニーズ・タイペイ戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	8	25	9	18	60
チャイニーズ・タイペイ ●	15	8	15	6	44

前日のインド戦を 100 点のリードで勝ったせいではないと思うが、なんともアンバランスな試合運びとなった。開始早々相手に連続得点され一時は 0 対 9 まで差をつけられたが、第 2 ピリオド開始 3 分に #9 山本の 3 P シュート等で 15 対 15 と追いつき、その後も徐々に点差を広げ 10 点差で前半を終える。

しかし第 3 ピリオドに入ると攻撃がかみ合わず 5 分間無得点、その後 #6 間宮のインサイドプレーなどで得点するが、相手に詰め寄られて 42 対 38 の 4 点差でこのピリオドを終わる。第 4 ピリオドに入るとディフェンスがよく機能して 5 分間で 2 点と相手を抑えてリードを広げ、結局 16 点差で勝利したが良いリズムのオフェンスができずに終わった。

9 月 1 日 中国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	18	19	8	12	57
中 国 ●	13	18	12	13	56

お互いに 3 連勝同士の対戦で予選ラウンド 1 位通過を目指すぶつかり合いとなった大一番、日本は第 1 ピリオドから #12 吉田や #10 渡嘉敷のシュートなどで先行し、主導権を握る。第 2 ピリオドに入ると中国も 3 P で応戦し 6 分を過ぎたところで、27 対 25 の 1 ゴール差に詰め寄られる。ここでディフェンスを立て直した日本は、ゴールへ向かって果敢なドライブインと #10 渡嘉敷のシュートなどで得点し、37 対 31 の 6 点差で前半を終える。

第 3 ピリオド高さのある中国のリバウンドなどに抗しきれず開始 5 分間で 4 点しか得点できず、ディフェンスで頑張るものの徐々に点差を詰められて 45 対 43 と 1 ゴール差まで詰め寄られる。第 4 ピリオド開始早々中国が連続得点で逆転し、一時は 4 点のリードを許してしまうが、ここから日本も #12 吉田から #10 渡嘉敷のコンビで得点し、残り 2 分に 55 対 55 の同点に追いつく。タイムアウト後日本は連続ファウルで相手にフリースローを与えてしまうが中国がフリースローに失敗、残り 1 分を切ったところで 55 対 56 と中

国1点のリードとなる。残り18秒で日本ボールとなったとき#12 吉田が渾身の力を込めたシュートを成功させ57対56と逆転に成功、残り3秒中国がオフェンスミスして試合終了となり日本が辛らくも逃げ切った。最後に自身のシュートで逆転した主将の#12 吉田は、「何が何でも自分がシュートを決めようと思った」と振り返ったが、主将らしい強気が久しぶりに宿敵中国を退ける快挙となった。

9月2日 タイ戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	26	24	18	27	95
タ イ ●	6	13	18	6	43

前日の中国戦で予選ラウンド1位通過を決めた日本は、のびのびとしたプレーでタイを圧倒、ダブルスコア以上の得点で勝利して予選リーグを5戦全勝とし、休養日1日をはさんで上位4チームによる決勝トーナメントに進み、準決勝では予選ラウンド4位のチャイニーズ・タイペイと対戦することになった。

[決勝トーナメント]

9月4日 チャイニーズ・タイペイ戦 準決勝

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	23	11	9	22	65
チャイニーズ・タイペイ●	11	22	13	12	58

この大会前に日本国内で開催された国際親善強化試合3試合と、予選ラウンドでいずれも勝利しているチャイニーズ・タイペイに対して、第1ピリオドでは圧倒したもののメンバーを替えた第2ピリオドでオフェンスに失敗、その後先発メンバーに戻したがなかなか流れを取り戻せずに苦戦。結局は勝利したもののバスケットボール試合特有ともいえる試合の流れを掴むことに苦労した準決勝となった。

第1ピリオド日本は#12 吉田のアシストから#10 渡嘉敷、#14 本川がシュートを決めて主導権を握る。その後も厳しいディフェンスと果敢なオフェンスリバウンドなどを経て得点を重ね、#6 間宮や#10 渡嘉敷のインサイドプレーも冴えて23対11とリード。

第2ピリオド、日本がメンバーを入れ替えるとプレーが単発となって得点が伸びない間にじわじわと追い上げられ、中盤にスタートメンバーに戻すが流れに乗れず、残り1分に逆転される。終了間際に#10 渡嘉敷がねじ込んで34対33と1点リードで前半を終える。

第3ピリオド、調子に乗れない日本に対して相手は思う存分なプレーから得点し、一時38対46の8点差までリードを広げられる。しかし日本はディフェンスで粘りを見せ残り4分間相手を無得点に抑える一方、オフェンスでは#10 渡嘉敷のシュートや#11 篠崎のフリースローなどで追い上げ43対46とする。

第4ピリオドに入ると開始早々#8 高田のシュートや#10 渡嘉敷のフリースローで逆転に成功、#11 篠崎のドライブインや速攻などで得点すると更に#14 本川の3Pも決まって流れを引き寄せる。その後も日本は連続得点し残り3分に61対50と11点のリードを奪う。最後はチャイニーズ・タイペイがファウルゲームを仕掛けるが、日本は冷静にフリー

スローを決めて逃げ切り決勝進出を決める。

9月5日 中国戦 決勝

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	23	21	24	17	85
中 国 ●	11	11	12	16	50

いよいよオリンピック出場の切符をかけた決勝戦、この試合に勝てば3大会ぶりにオリンピックへ出場できる大事な試合、予選ラウンド1点差で勝った相手、地元中国だけに激しい展開が予想されたが、そんな心配をまさに一蹴するような試合展開となった。

第1ピリオド開始から5分までは重苦しい試合展開で両チームとも僅かな得点だったが、その後日本は#14 本川の連続スティールからの得点でリズムを掴み、その後も速攻による連続得点などで快進撃、23対11の12点差で終わる。第2ピリオドへ入っても日本の勢いは止まらず、#10 渡嘉敷のインサイドプレーや#9 山本、#15 王の速攻で開始3分半に31対14と更にリードを広げる。

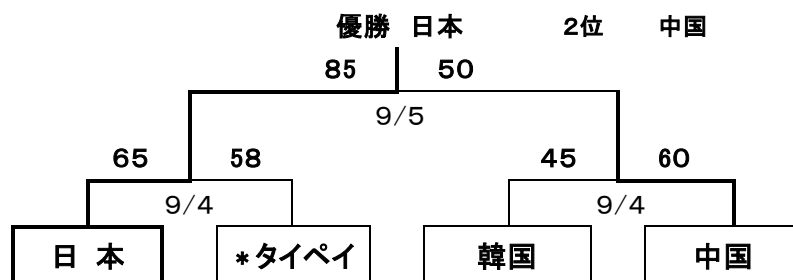
厳しいディフェンスによって相手の得点を封じると共に次々と速攻を成功させ、終盤には#14 本川の3Pも決まって44対22というダブルスコアで前半を終える。

第3ピリオドに入っても日本の激しいディフェンスが冴えて、簡単には相手に得点させず、自分たちの良いシュートを沈める。中盤タイムアウトを取った中国はディフェンスをゾーンに替えて3Pなどで反撃を試みるが、日本は#14 本川や#9 山本の3Pを含む6連続得点で突き放し、68対34の34点差で最終ピリオドへ。第4ピリオドへ入ると中国がドライブや3Pなどで必死に追い上げを図るが、大量リードの日本はディフェンスから走って速攻につなげ点差を詰めさせない。残り4分を切ってから日本はベンチメンバーを送りこむ余裕さえ見せ、#4 三谷、#7 栗原の連続3Pも決まって圧勝した。



写真提供 JBA

[決勝トーナメント勝ち上がり]



*はチャイニーズ・タイペイ

なお、9月5日に行われた3・4位決定戦は、52対45で韓国が3位。

[最終順位]

レベルⅠ

- 優勝 日本 2大会連続3回目の優勝（リオ・オリンピック出場権獲得）
- 準優勝 中国 FIBA オリンピック世界最終予選出場権獲得
- 3位 韓国 FIBA オリンピック世界最終予選出場権獲得
- 4位 チャイニーズ・タイペイ
- 5位 タイ（レベルⅡへ降格）
- 6位 インド（レベルⅡへ降格）

レベルⅡ

- 1位 フィリピン（レベルⅠ昇格）
- 2位 北朝鮮人民共和国（レベルⅠ昇格）
- 3位 カザフスタン
- 4位 マレーシア
- 5位 ホンコン・チャイナ
- 6位 スリランカ

[個人表彰]

この大会の個人表彰において渡嘉敷選手がMVPに輝き、大会ベスト5に吉田選手が選出された。

大会ベスト5

- P G 吉田亜沙美（日本#12）
- S G KIM Danbi（韓国#6）
- F TING Shao（中国#7）
- P F SUN Mengran（中国#13）
- C 渡嘉敷来夢（日本#10）



渡嘉敷選手 写真提供 J B A

男子日本代表はアジア 4 位に

リオ・オリンピック世界最終予選出場権獲得

[編集部]

9月23日から中国・長沙で開催された第28回 FIBA ASIA 男子選手権大会において、男子日本代表が健闘し18年ぶりにアジアで4位の座を勝ち取り、目標としていたアジアベスト4進出を達成した。そして日本代表は、来年フランスで開催されるリオ・オリンピック世界最終予選に出場するための切符を獲得した。

この大会はオリンピック出場権を目指してアジア各地域から16チームが参加、4チームずつ4ブロックに分けて総当たりリーグ戦の1次ラウンドを行い、上位3チームが二つの第2次ラウンドリーグへ進む。更にその上位4チームずつ、計8チームが決勝トーナメントに進んで優勝を争う方式で行われた。

[予選ラウンド組合せ]

グループA イラン、日本、マレーシア、インド

グループB フィリピン、パレスチナ、クウェート、ホンコン・チャイナ

グループC 韓国、ヨルダン、シンガポール、中国

グループD チャイニーズ・タイペイ、レバノン、カタール、カザフスタン

日本代表は開幕早々強豪イランと対戦して完敗したが、マレーシアとインドに勝ってグループAで2位となり2次ラウンドへ進出、フィリピンには競り合いの末敗れたが、インド、ホンコン・チャイナ、パレスチナに快勝して決勝トーナメントへ進んだ。

[チーム紹介]

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	長谷川 健志	日本協会
アシスタントコーチ	佐藤 賢次	東芝プレイブサンダース神奈川
アシスタントコーチ	佐々 宣央	リンク栃木ブレックス
マネージャー	宮本 望	リンク栃木ブレックス

<選手>

NO	選手名	P	身長 c m	体重 kg	年齢 歳	所 属
0	田臥 勇太	P G	173	70	34	リンク栃木ブレックス
6	比江島 慎	P G	190	88	25	アイシンシーホース三河
8	太田 敦也	C	206	112	31	浜松・東三河フェニックス
10	橋本 竜馬	P G	178	81	27	アイシンシーホース三河
15	竹内 譲次	P F	207	98	30	日立サンロッカーズ東京

16	松井 啓十郎	S G	188	83	29	トヨタ自動車アルバルク東京
17	荒尾 岳	P F	198	97	28	千葉ジェッツ
24	田中 大貴	S G	192	93	24	トヨタ自動車アルバルク東京
25	古川 孝敏	S G	190	92	27	リンク栃木ブレックス
34	小野 龍猛	S F	198	100	27	千葉ジェッツ
42	広瀬 健太	S F	193	90	30	日立サンロッカーズ東京
	平 均		192	91	28	

*年齢所属は 2015 年 9 月 11 日現在

なお、上記に加えて金丸選手が代表として合宿などにも参加してきたが、遠征直前に怪我をしたため補充はせず、11名の選手体制となった。

[予選1次ラウンド成績]

9月23日 イラン戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ●	11	11	14	12	48
イラン ○	15	22	21	28	86

9月24日 マレーシア戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	32	27	35	25	119
マレーシア ●	9	14	2	23	48

9月25日 インド戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	15	24	24	20	83
インド ●	18	14	20	13	65

これまで1勝1敗の日本はインドと対戦、立ち上がりインドに先制されたが第2ピリオド早々に逆転して、その後は速い攻撃で得点しながらゲームを進める。

第4ピリオド、それまで10点程度のリードで戦ってきた日本は一時7点差まで詰め寄られるが、#0 田臥の連続得点から立て直し、最終的に18点の差をつけて快勝、2次ラウンド進出を決める。



写真提供 J B A

[予選2次ラウンド成績]

順位		フィリピン	イラン	日本	インド	パレスチナ	ホンコン・チャイナ
1位	フィリピン		○ 87	○ 73	○ 99	● 73	○ 101
2位	イラン	● 73		○ 86	○ 88	○ 94	○ 111
3位	日本	● 66	● 48		○ 83	○ 74	○ 89
4位	インド	● 65	● 66	● 65		○ 73	○ 76
5位	パレスチナ	○ 75	● 48	● 67	● 70		○ 85
6位	ホンコン・チャイナ	● 50	● 56	● 62	● 71	● 79	

1次リーグで対戦した場合その成績がそのまま2次リーグに適用される

上記の結果日本代表は2次リーグまでで3勝2敗とし、予選ラウンド3位で8チームによる決勝トーナメントへ進出。

9月27日 フィリピン戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本 ●	18	15	13	20	66
フィリピン ○	14	21	19	19	73

第2ピリオドに#34 小野の活躍で一時29対19と10点リードしたが、その後シュートが決まらず前半33対35と2点のビハインド、期待された第3ピリオド、同点に追いついた後フィリピンに3P2本を決められてリードされ、46対54と8点差をつけられてしまう。この8点差が最後まで響いて結局7点差で敗れるという惜しい試合だった。

日本はフィリピンのセンター（211cm）が一時故障してフル出場しなかったにも拘わらず、肝心のところで抑えることができずに得点された形、上背のビハインドをどう乗り越えるかが今後の課題となりそうだ。

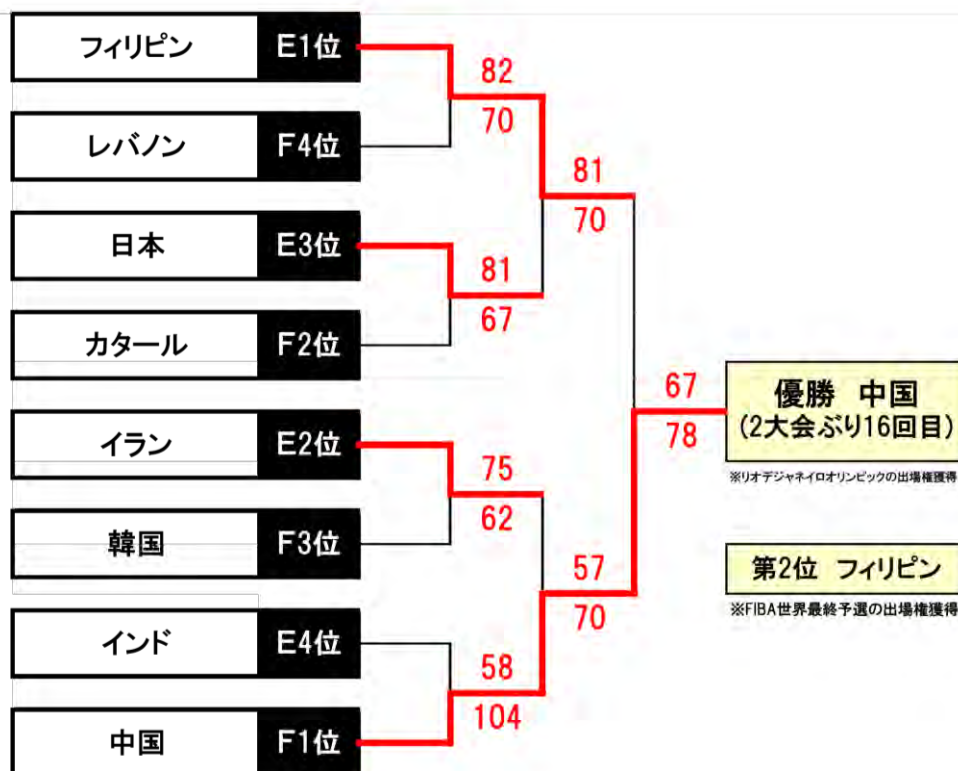
ゴール下で踏ん張る

竹内選手——>

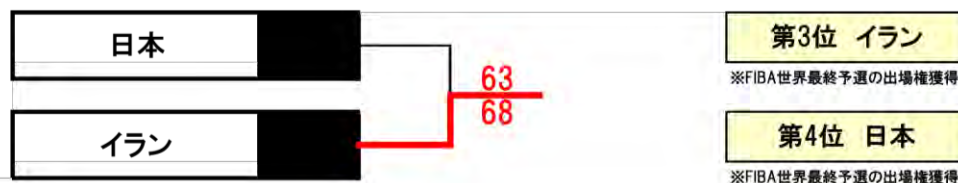


写真提供 JBA

[決勝トーナメント]



■3位決定戦



日本は、決勝トーナメント1回戦でカタールと対戦し、81対67で快勝して準決勝へ進んだが、またしてもフィリピンに敗れて3位決定戦へ回り、予選ラウンドで完敗したイランと対戦、63対68で残念ながら敗れた。その結果、アジアにおいて18年ぶりとなる4位となり、リオ・オリンピック世界最終予選への出場権を獲得した。

車椅子男子日本代表リオ・パラリンピック出場

おめでとう！全員バスケで掴んだりオ出場権

[編集部]

三菱電機 2015 IWBF アジアオセアニアチャンピオンシップ千葉が 10 月 10 日から 17 日まで千葉ポートアリーナで開催され、日本男子チームは 3 位を獲得して、リオデジャネイロで開催されるパラリンピックにアジアオセアニア代表として参加することが決定した。

だが、その道のりは厳しいものだった。予選ラウンドでは、4 年間勝てていない韓国に逆転勝ちをした。3 位決定戦でも同様、9 点差からの逆転。韓国はほとんど 5 人でのプレーに対して、日本は全員で臨んだ結果である。出場選手の合計持ち点を 14 点に納めないといけないというルールのため、ユニットでの交代を採用している。ユニットではどのメンバーになってもそれぞれの役割があり、主力選手の体力を温存する重要な役割を担っており、チームを勢いづけるその機能は日本が全員バスケで勝利したと伝えられた。

また、日本で初めての開催、それまでのアウェイの環境とは全く違って、最終日も小雨のなか早くから開場いっぱいに応援に詰めかけ、その大きな声援が選手の後押しをした。

男子日本代表チーム

チームリーダー	小川 智樹
HC	及川 晋平
AC	京谷 和幸
チームスタッフ	佐藤 美穂
トレーナー	眞田 崇
トレーナー	竹内 直人
メカニック	上野 正雄



練習風景

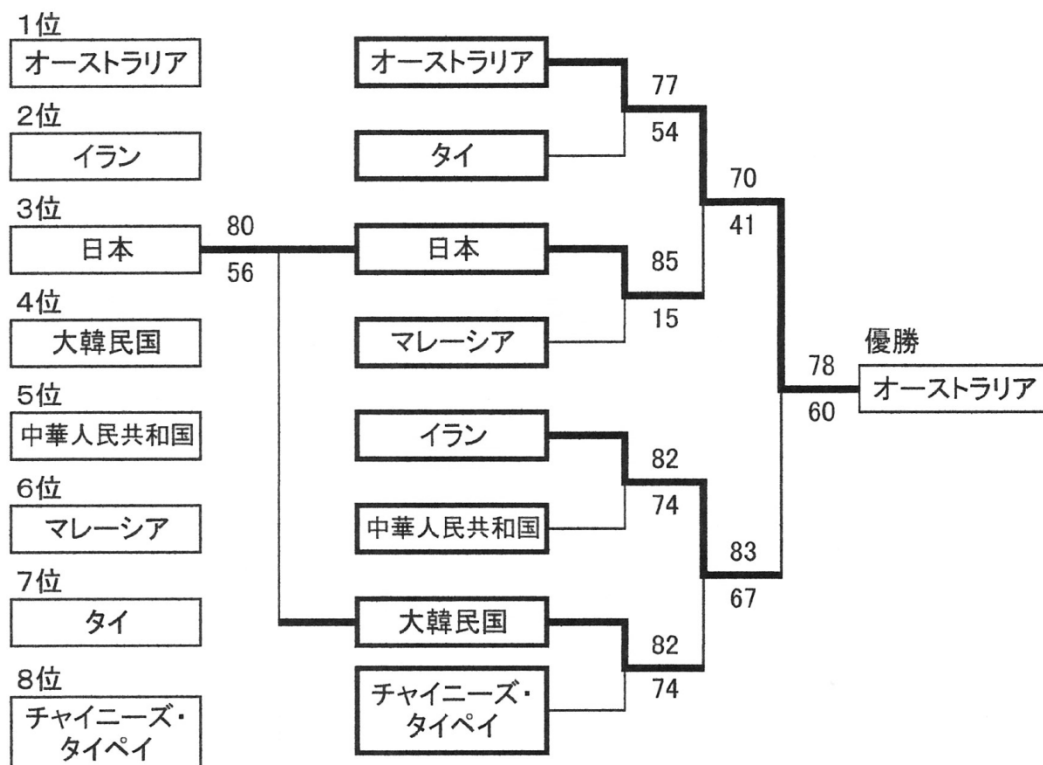
選手	氏名	チーム名	持点
4	藤本 怜央	宮城 MAX	4.5
5	豊島 英	宮城 MAX	2.0
6	土子 大輔	千葉ホークス	4.0
7	永田 裕幸	埼玉ライオンズ	2.0
8	佐藤 聡	宮城 MAX	1.0
9	香西 宏昭	NO EXCUSE	3.5
10	鳥海 連志	佐世保 WBC	2.0
11	宮島 徹也	富山県WBC	4.0
12	藤澤 潔	埼玉ライオンズ	2.0
13	千脇 貢	千葉ホークス	2.5
14	石川 丈則	パラ神奈川 SC	1.5
15	藤井 新悟	宮城 MAX	1.5

予選リーグ成績表

Man' s Pool A	AUS	IRI	KSA	MAS	PHI	TPE	勝数	負数	順位
AUS		83-56	91-20	81-26	104-24	95-26	5	0	1
IRI	56-83		123-32	94-32	100-41	106-26	4	1	2
KSA	20-91	32-123		36-41	74-61	48-64	1	4	5
MAS	26-81	32-94	41-36		58-56	49-43	3	2	3
PHI	24-104	41-100	61-74	56-58		47-59	0	5	6
TPE	26-95	26-106	64-48	43-49	59-47		2	3	4

Men' s Pool B	AFG	CHN	JPN	KOR	THA	UAE	勝数	負数	順位
AFG		24-110	12-91	19-121	23-96	57-77	0	5	6
CHN	110-24		64-61	51-81	72-60	95-36	4	1	3
JPN	91-12	61-64		55-48	80-59	68-19	4	1	2
KOR	121-19	81-51	48-55		85-66	95-25	4	1	1
THA	96-23	60-72	59-80	66-85		65-42	2	3	4
UAE	77-57	36-95	19-68	25-95	42-65		1	4	5

男子決勝トーナメント上位成績と順位





リオ出場を決めた後、にこやかにポーズをとる全日本男子



今回の大会は、「リアル」でお馴染みの井上雄彦氏が応援ブックを始め、ポスター、会場の千葉ポートタウンの壁面、千葉市モノレールのラッピング等に協力された。「リアル」はHCの及川晋平がモデルとなっている。

秋季講演会・交流会開催

J B A 専務理事 大河正明氏

[編集部]

恒例の講演会と交流会は、11月5日(木)に東京御茶ノ水にある池坊東京会館において開催され、多数の会員と聴講を希望する関係者で会場の会議室は満員となった。

講師の大河さんは、昨年から科されていた FIBA による国際資格停止という制裁の主要因となった、男子国内2リーグ並存を解消した立役者の一人。2016 シーズンから始まる B リーグの企画と日本のバスケットボールの将来性について、プロジェクターを使いながら1時間余りにわたって講演された。

講演に先立ち佐室振興会会長は次のように挨拶した。

本日は多数の方々のご参加有難うございます。本日講師をお願いした大河さんには大変お忙しい中にもかかわらず時間を割いていただき厚くお礼申し上げます。大河さんは来年度から開催される男子国内トップリーグ・Bリーグのチェアマンでもあり、それらについてお話をお聞きできることは貴重な機会であり、大変嬉しく思っております。



大河正明氏プロフィール



- 1958 年 京都府出身 57 歳
洛星中・高校から京都大学へ進む
- 1981 年 三菱銀行(現三菱東京UFJ銀行)入社
- 1995 年 Jリーグへ出向、2年後銀行へ戻り支店長など歴任
- 2010 年 銀行退社、Jリーグ入社
- 2011 年 Jリーグ管理統括本部長
兼クラブライセンスマネージャー
- 2012 年 Jリーグ理事、日本サッカー協会理事
- 2014 年 Jリーグ常務理事
- 2015 年 J B A 専務理事／事務総長、Bリーグチェアマン

講演会概要

はじめに

私はJリーグにいた関係から、サッカー界からバスケットボール界へきた人と言われますが、中学高校時代には部活動でバスケットに取り組み、大した経歴ではありませんが全国中学校大会に出場した経験もあり、実はバスケット人間です。

私は、日本のバスケット界発展のためにはどうしても男子プロリーグの成功が必要だと考えますので、本日は来秋開幕するBリーグを中心にお話をさせていただきます。

バスケットボール界を取り巻く環境

日本の男子トップリーグは、NBLとbjリーグの二つに分かれてリーグ戦を行ってき

ましたが、「トップ」と称するリーグが二つあることに加え、2006年に世界選手権を招致したにもかかわらず、国際的にみた日本の競技力が向上しないことなどがFIBAにおいて問題となりました。更にこれらを改善しようとしないうるJBAのガバナンス能力を含めて問題視され、昨年、国際資格停止の制裁処分を受けました。そして1リーグ化の成果として設立されたのが、Bリーグであることはご存知のとおりです。

日本において、現在NBLまたはbjリーグに属する46クラブがある都道府県は「34」におよび、どちらかというと日本の東側に多くのチームがあります。これは気候の関係もあって、比較的寒い地域の方が体育館やアリーナが整備されているということの表れかもしれません。

一方、1993年に開幕したJリーグは、37都道府県に52クラブがあつて、実はバスケットの分布状況とあまり変わりません。つまり、バスケットもある程度は発展していると考えられます。私たちが目指すのは、これをさらに全国に広げ、各地域に密着したバスケット中心のスポーツクラブに発展させ、競技力を高めて国際的にも貢献できる姿となることです。

Bリーグへの参加が認められた45のクラブについては、日本の東側、中部、西側に分け、財務状況などを勘案するとともにアリーナの確保状況を見極めて1部から3部までに割り振りました。特にアリーナについて1部では5,000人規模のアリーナをホームゲームの80%で確保でき、2部は3,000人規模のアリーナを同様に確保できることを最大のポイントとしました。

1、2部間でのクラブの入れ替えは、ない方が各クラブに対する投資を安心して呼び込める利点があり、現にNBAなどのプロスポーツが発展しているアメリカではリーグ間の入れ替えがない単独リーグとなっています。Bリーグで各クラブの切磋琢磨を期待する視点から、入れ替え戦も実施することとしました。

Bリーグという名称についてもいろいろ考えましたが、バスケットボールのBでもあるし、高校生などの意見も参考にしながら、ロゴとともに決めました。

次に、スポーツの中でバスケットがどんな環境にあるかを分析してみましょう。まず競技者人口についてですが、バスケットの世界競技人口は4.5億人でサッカーは2.6億人位、テニスは1億人位で競技人口をみると世界ではバスケットがトップです。

国内でみると、バスケットの競技者登録人数は63万人程、サッカーは約96万人で、その比は2対3位。特にバスケットでは女性の登録人口がその半数近くいるというのが特徴ですが、一方で審判の登録人数をみると、チーム数や試合数から考えても、まだまだ十分というには程遠いというのが現状です。

マーケット的に観戦してみたいスポーツを年代別、男女別に調べてみると1位は野球で2位がサッカー、バスケットでは男女ともに若年層の観戦意向が高いのが特徴です。10代の女性には、17%以上の方に観戦意向がありますが、これはバスケットがアリーナや体



育館での観戦のため、天候などに左右されず、おしゃれをして観戦できる、といったことが可能だからかもしれません。いずれにしろ、集客のポテンシャルはあると思います。

バスケットの観戦意向状況					
男 性			女 性		
10 代	20 代	30 代	10 代	20 代	30 代
12.8%	11.7%	9.9%	17.5%	9.4%	6.9%

市場規模（年間）については、野球で約1,600億円、サッカーで約1,000億円、バスケットは100億円位で、サッカーと比べると10%程度となっています。日本協会の予算規模もバスケットはサッカーの10%以下なのですが、逆に言うと、バスケットにはまだまだ伸びる要素があるということだと思います。

さらに年間の観客動員数をみると、野球が1試合平均約2.5～3万人、サッカーがJ1の1試合平均1.7万人位であるのに対し、バスケットはbjリーグの1試合平均で2千人程度。こちらもあり方によっては大幅な観客増員が期待できるはずです。

成長への二つのキーワード

権益統合とデジタルマーケティング

各種事業の売り上げについては法人向け営業と個人向け営業があり、前者は日本協会が主催する国際大会などの放映権など。後者はリーグやクラブが担当するチケット販売などで、バスケット自体が注目されるような全体的なプロモーションを日本協会やリーグが行う空中戦だとすれば、各クラブが地元密着で行うようなものは地上戦と言えます。それらをうまくマッチさせれば観客動員数の増加が見込めると思います。



テレビ放映について例を挙げてみましょう。10～15年前はお茶の間でテレビをつければ必ずと言っていいほど、プロ野球の中継をしていました。しかし最近は地上波での放映は少なくなっています。これは、どのスポーツでも視聴率を稼げなければ、地上波ではほとんど放映されないということです。

Jリーグも同様で、開幕当時は地上波でもよく放映されていましたが、最近ではBSかCSでの放映中心に代わっています。国際大会など、日本代表が出場する試合で、しかも勝てそうな試合しか地上波で放映されない主な原因は視聴率が取れないからですが、国際的に強い競技種目の日本代表戦は30%程度の視聴率となることから、地上波でも、いわゆるゴールデンタイムに放映されています。

テレビ放映に関する権益は非常に大きいので、日本協会とリーグ、クラブが一緒になって取り組むという権益統合を図る必要があります。

例えば国際試合の放映権など、日本協会が管轄して取り扱うものと、オフィシャルスポンサーなどのリーグやクラブが管轄するものを区分けせず、日本代表の試合を放映するならリーグ戦についてもセットで放映してもらうなど、それぞれの権益を統合してマーケティングを行っていく、という具合です。

デジタルマーケティングでバスケットとの接点を高める戦略も重要です。最近では若い人から高齢者に至るまで、スマホなどの端末によっていろいろな情報を得ています。ところが情報源となるホームページは団体ごと、クラブごとに独立して作成して流していますので、個々の情報は簡単に見られますが、一つの情報ソースから得られる情報は意外と少ないものです。



これも情報の一本化なり統合が必要で、日本協会やリーグ、クラブのどこかにアクセスすれば、結果的にバスケットに関するあらゆる情報が得られるようにしないと効率的ではありません。

チケットについても改革を考えており、スマホで購入・決済でき、アリーナの入口でスマホをかざせばそのまま入場できるといったシステムの開発が必要だと思っています。

また、スマホなどの端末機能を利用してファンや観客のデータベースを構築し、アリーナへの来場を促したり、再来場の案内を流したりすることができるような、データの収集・蓄積・分析にも取り組んでいきたいと考えています。

夢のアリーナの実現

アリーナに関しても、全体のスコアと時間の経過程度しか表示されていないところが多く、選手の得点やファウルの数を表すスタッツなど、観客に喜んでもらうためにはもう少し詳しいデータの提供が必要です。大きな電光掲示板があればそれを活用し、なければWi-Fi機能を使って観客のスマホへそれらを流すくらいのサービスは必要と考えます。

観戦にきていただいた人に楽しかったという感覚を残すことも大切です。チアリーダーや休憩時間のイベントなどは当然必要なことで、これは現在bjリーグで行っているエンターテインメント性のあるイベントなども参考にしていきたいと考えます。

日本は世界的にも安全な国でおいしい食べ物も豊富ですが、ことアリーナや体育館に関していえば二流国です。観客席が木製の長椅子で、長い時間座っていられないような環境のところもありますし、収容人員もそれほど多くありません。中国をはじめ、アジアの国々のなかにも、1万人位収容できるアリーナは数多くあるわけですから、環境的なことの改善についても行政などに働きかけて改善に力を注いでいかなければなりません。

一方で、地域に根付いたクラブの活動も必要なことです。ホームタウン活動の活動回数ではリンク栃木がトップで一つの見本となっていますが、学校などに対するクリニックや地元の催事への積極的参加など、地域に対する貢献も大事な集客活動だと考えます。

将来的な事業目標

前述したとおり、現在のバスケットの事業規模は年間100億円程で、Jリーグに遠く及びません。これを短期的な目標としてオリンピック出場は当然のこととし、5～10年後には全体で300～600億円程度、1部のクラブについてはクラブあたり10億円位を創出できるようにしなければなりません。クラブで10億円の売り上げがあれば1億円

プレーヤーを創出することもできるでしょう。そうすれば、若くて優秀な選手が、大きな夢を持ってBリーグへ集まって来るでしょう。

アジア、そして世界で勝つためにも、選手の技術を伸ばすことは大事なことです。野球やサッカーでは高校を出てすぐプロになる選手も多いですが、バスケットの場合は殆ど大学に行きます。私が聞いている範囲ですが、大学のトップ選手たちは、いわば自分よりもレベルの低い選手と日々対戦しているわけですから、学生時代には技術があまり伸びないということのようです。そこで、よりレベルの高いプロの場で彼らを鍛え若いうちからどんどん技術を伸ばすような強化方策も必要ではないでしょうか。

オリンピック出場に関して言えば、女子は今回アジア1位となって来年のリオ出場切符をとっていますが、男子についてはモントリオール以来出場できておらず、このままでは東京オリンピック出場も危ぶまれますので、至急の強化が必要です。更に2017年からはワールドカップの予選が2月、6月、11月に開催されますので、各クラブから国内リーグ期間中でも代表選手が招集されます。そのため2月と11月の日程をどうするか検討しなければなりません。



Bリーグの目的の一つに日本のバスケットを強くすることもありますので、大学や高校の組織とも話し合っ、日程的なことや強化についても詰めたと思います。

そして中期的目標となる10～20年後には、男女ともにアジアチャンピオンとして君臨し、1,000億円程度の事業規模、そして競技者登録数100万人となってJリーグに追いつきたいと思います。

クラブライセンスとクラブ経営

事業計画実現のために早速実施する施策は、クラブ運営に関するライセンス（免許）制度の導入です。サッカーでもやっていますが、各クラブがプロとして運営していく上ではこのライセンスの交付を受けなければなりません。ライセンスにはクラブ運営の根幹となる5つの基準（財務、法務、組織、施設、育成）に関して審査要件を設け、要件を充たしたクラブにライセンスを交付する仕組みで、ライセンスのないクラブは1～2部リーグからはずれることになります。1～2部のクラブはプロとして全て法人となりますので、法人としての組織は当然で、そこにはきちんとした代表者や、運営をしていく上での人材確保は必須です。

審査基準の例を少し挙げると、クラブがシーズン途中で債務超過になっていないか、施設面でホームアリーナがリーグの規定を充たしているか、あるいは選手の強化育成をしっかりと行っているかなど、細部まで具体的に審査を行います。

これによってバスケットに関する最低限の品質保証のみならず、クラブの運営能力や、施設環境の向上を図り、最終的にはリーグの価値を高めることになるのです。

時間の関係もあり、かなり駆け足での説明となってしまいましたが、以上で私の話を終わらせていただきます。

交流会の開催

講演会終了後行われた交流会には振興会会員以外の方も多く出席されて賑わった。冒頭、阿部副会長の挨拶と乾杯の音頭で始まった懇親会はいつもながらの楽しい場となり、秋の夜長をバスケット談義に酔いしれた。

阿部副会長挨拶

昨年 FIBA の制裁を受けたときはショックだったバスケットボール界も、タスクフォースの方々の努力によって8月に制裁を解かれ、その後の女子アジア選手権大会では代表が見事に優勝してリオ・オリンピックの出場権を勝ち取り、男子についてもアジア4位に食い込んでオリンピック世界最終予選への出場を決めるなど、明るい兆しが見えてきました。

これからは本日の講演にもありましたように、Bリーグを成功させバスケットボール界発展のために皆で力を合わせていきましょう。



男子新リーグ名称は「Bリーグ」

参入予定クラブの所属リーグを決定

[編集部]

去る8月29日(土)、J P B L (ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボール・リーグ) は2016年秋に開幕する男子プロバスケットボール新リーグへ参入予定46クラブの階層分けを発表し、更に9月15日には新リーグのリーグロゴとともにリーグ名称を「Bリーグ」(B.LEAGUE) と発表した。

発表の席上、名称の「B」には、バスケットボールのBのみならず、文字が表す力強さがあり、B e 動詞「Boys, be ambitious」のように無限の可能性を秘めた世界が広がっている、という意味も込められており、バスケットボールの未来と可能性が表されているとの説明があった。

また新名称とともにJ P B Lの新体制も発表され、新チェアマンには、J B A専務理事兼事務総長である大河正明氏が就任した。

J P B Lの新体制は以下の通り。

チェアマン	大河正明	公益財団法人日本バスケットボール協会 専務理事 事務総長／公益財団法人日本サッカー協会 理事／公益財団法人日本プロサッカーリーグ 理事
理事	葦原一正	一般社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ 事務局長 兼 事業運営本部長
	岡本依子	全日本テコンドー協会 理事
	片貝雅彦	信州ブレイブウォリアーズ 経営統括責任者
	木村達郎	琉球ゴールデンキングス 代表取締役社長
	境田正樹	公益財団法人日本バスケットボール協会 監事／東京大学 理事、内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部 政策参与
	島田慎二	千葉ジェッツ 代表取締役社長
	竹内美奈子	株式会社T M F u t u r e 代表取締役社長
	鶴宏明	公益財団法人江副記念財団 代表理事
	中西大介	公益社団法人日本プロサッカーリーグ 常務理事
	中村彰久	仙台 89 E R S 代表取締役
	弘田充宏	公益財団法人日本バスケットボール協会 事務次長
監事	阿部謙一郎	株式会社フジクラ 社外取締役、公認会計士
	岸郁子	四谷番町法律事務所 弁護士

9月15日の発表会見の席上、JBAの川淵三郎会長は、冒頭で「プロ野球があつて、Jリーグがあり、そして3つめのプロリーグとしてBリーグがある。日本のなかで皆さんの興味と関心を得て、発展していきたい。更に、日本代表チームが五輪で優勝できるように頑張つてほしい。」と挨拶した。更に大河チェアマンを紹介し、最後に「院政を張ります。」と宣言した。

大河チェアマンは「大変大きな役割を引き受けたと思っている。バスケットボールを魅力あるスポーツとして皆さんに見ていただきたい」と意気込みを語った。

次に2016年秋に開幕する新リーグ参加予定の全クラブ46の顔ぶれと、1～3部の階層分けを示す。これに合わせ、3地区制(東・中・西)の導入が発表された。

【1部】18チーム

※東地区	※中地区	※西地区
・レバンガ北海道	・日立サンロッカーズ東京	・アイシンシーホース三河
・秋田ノーザンハピネッツ	・東芝ブレイブサンダース神奈川	・三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋
・仙台89ERS	・横浜ビー・コルセアーズ	・滋賀レイクスターズ
・リンク栃木ブレックス	・新潟アルビレックスBB	・京都ハンナリーズ
・千葉ジェッツ	・富山グラウジーズ	・大阪エヴェッサ
・トヨタ自動車アルバルク東京	・浜松・東三河フェニックス	・琉球ゴールデンキングス

【2部】18チーム

※東地区	※中地区	※西地区
・青森ワッツ	・東京エクセレンス	・島根スサノオマジック
・岩手ビッグブルズ	・アースフレンズ東京Z	・広島ドラゴンフライズ
・パスラボ山形ワイヴァンズ	・信州ブレイブウオリアーズ	・高松ファイブアローズ
・福島ファイヤーボンズ	・豊田通商ファイティングイーグルス名古屋	・大分・愛媛ヒートデビルズ
・サイバーダインつくばロボッツ	・西宮ストークス	・熊本ヴォルターズ
・群馬クレインサンダーズ	・バンビシャス奈良	・レノヴァ鹿児島

【3部】9チーム

・埼玉ブロンコス	・東京サンレーヴス	・豊田合成スコーピオンズ
・大塚商会アルファーズ	・東京八王子トレインズ	・金沢武士団
・東京海上日動ビッグブルー	・アイシン・エイ・ダブリュアレイオンズ安城	・ライジング福岡

J P B L から同時に発表されたクラブの所属リーグ選考基準は次の通り。

所属が確定したクラブの選考基準

2015 年 3 月 25 日の JAPAN 2024 タスクフォース会議のプレスリリースで提示した基準をもとに下記のような基準で選考。

【1 部】

今回は、基準との乖離の解消見込を確認し、相対評価をしたうえで、総合的に判断。

「ホームアリーナの入場可能数 5,000 人」、「年間試合数の 8 割のホームゲームを実施できるホームアリーナの確保」「年間売上 2.5 億円」という条件を中心に総合的に判断。

【2 部】

今回は、基準との乖離の解消見込を確認し、相対評価をしたうえで、総合的に判断。

「ホームアリーナの入場可能数 3,000 人」「年間試合数の原則 8 割のホームゲームを実施できるホームアリーナの確保」「年間売上 1 億円」という条件を中心に総合的に判断。

【3 部】

アマチュアクラブ、2 部の基準を満たしてはいるが相対評価の結果 2 部とならなかったクラブ、2 部の基準を満たしていないクラブが対象。

※補足 1：昇降格について

昇降格については以下の考え方を基本。

1 部・2 部間：2 クラブ自動昇降格、1 クラブ入替戦

2 部・3 部間：入れ替えを実施予定(※クラブ数、入れ替えの方法は検討中)

ただし、いずれも昇格の対象になるには、昇格後の所属リーグのクラブライセンスを取得していることが条件。

※補足 2：準加盟クラブについて

3 部はプロ・アマ混成のリーグ。2 部昇格を目指すクラブは一定の要件を満たせば準加盟クラブとなることができる。

準加盟クラブであることは 2 部ライセンス取得のための前提条件。

準加盟クラブの審査の詳細については今後発表。

バスケットボール・ハンドブック

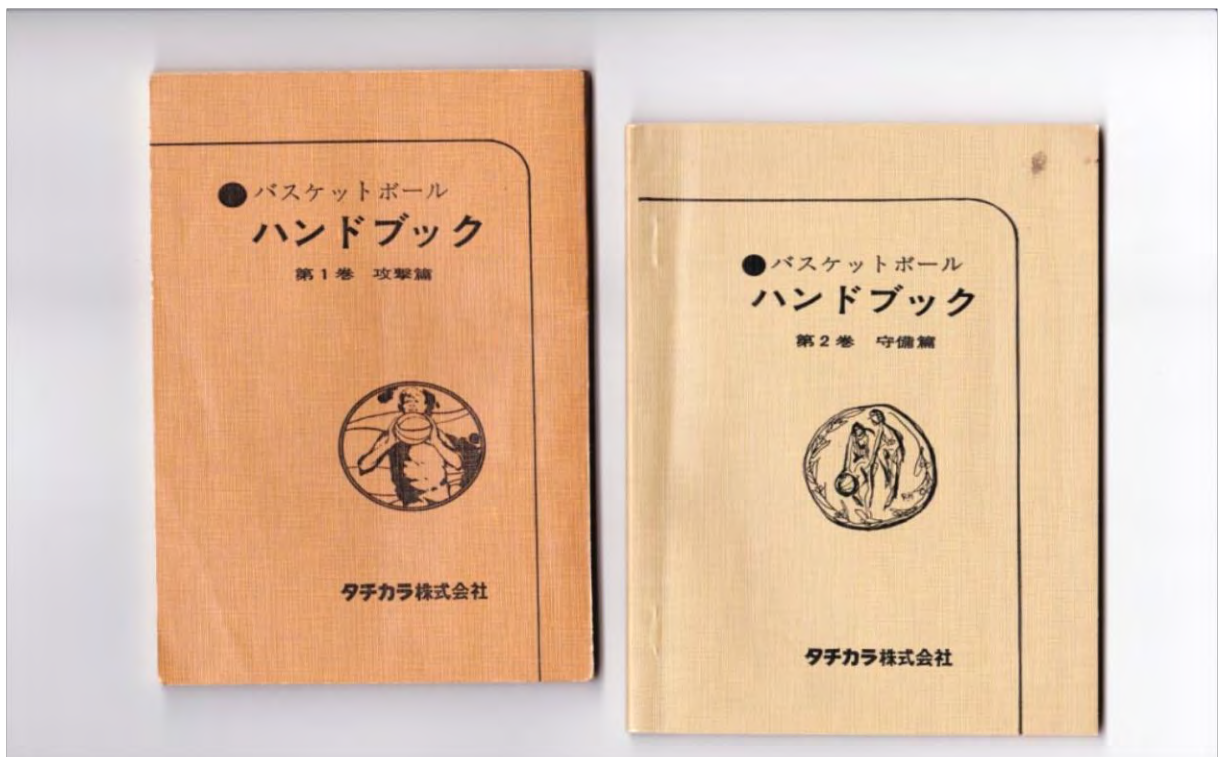
振興会保存から国会図書館へ

[普及部]

1964 年東京オリンピックが終わってまもなく、日本協会はバスケットボールの一層の発展を期すために指導者の拡大と充実を図る方策を打ち出した。

これを機に当時「シムレス号」というボールを製造販売していたタチカラ株式会社の飯室社長が、バスケットボール競技の普及・発展に協力するため「バスケットボール・ハンドブック」の発刊を考えた。

飯室社長は、1966 年に第 1 巻「攻撃編」を吉井四郎先生に、翌 1967 年に第 2 巻「守備編」を畑龍雄先生に、原稿依頼して各々 2 万部ずつ制作し、全国の学校のバスケットボール指導者に無料で送付した。



当時日本協会は 1964 年東京オリンピックを契機に、将来小・中・高校などの教師を目指している全国の大学教育学部などの学生を対象に、バスケットボールのルールや基本的技術や練習方法、指導方法などを習得させ、学校や社会におけるバスケットボールの普及に役立てることを検討。これに先立ち、文部省(当時)の援助のもとに 1962 年から「全国教育系大学学生バスケットボール指導者養成講習会・競技会」の開催を始めていた。

[コーチング研究会]

日本協会の組織としてではなく同好の志の集まりとしてコーチング研究会が発足した。日本において第1回目のコーチング研究会は、1961年青森で開催された第14回全国高校選手権大会の開催中に行われた。世話役として、吉井四郎氏、武富邦中氏、辻村恂氏などが中心であった。

研究会の後、会報の発行や日本協会機関誌にその内容を発表し多くの人に知らせた結果、研究会は10回目まで続き会員も250名に達した。このコーチング研究会が後の中央指導者講習会開催の引き金になったのである。

日本協会は当時の小学校教育指導要領「球技の部」に、バスケットボールを採用してもらうための努力を行い、その前提として全国に指導者を3,000名以上増やす施策を図ることも、文部省はひとつの条件にしていたようである。

1964年東京オリンピック後、バスケットボールの底辺拡大のためいろいろな施策が実施されているが、1966年に代々木の青少年スポーツセンターにおいて日本協会と高体連の主催で第1回中央指導者講習会が3日間にわたって開催された。

その内容は、吉井四郎氏による「コーチングの理論」の講演に続いて、下記の分科会で分野ごとに討論されたが、全国の指導者が一堂に会して、問題提起、解決方法などを議論して良い結論へと導いている。

第1分科会 「フットワーク及び1対1の攻防とその指導法」

(講師 畑 龍雄、加藤雅春)

第2分科会 「ボールハンドリングの諸技術とその指導法」

(講師 小森正巳、青井水月)

第3分科会 「対人防御法と基礎体力の増強トレーニング」

(講師 吉井四郎、渡辺直吉)

現在全国で多様なかたちでバスケットボールクリニックが開催されているが、タチカラ株式会社が発行した「バスケットボール・ハンドブック」第1巻、第2巻は当時日本のバスケットボール普及・発展に大きく貢献したものと考えられる。

このバスケットボール・ハンドブック第1巻、第2巻は振興会に長い間保存されていたが、これを永く保存することを目的に、このほど国立国会図書館に寄贈した。

梶川三枝氏を招聘し勉強会開催

バスケットボール界のマーケティング

[総務部]

9月17日、米国留学を機にアメリカのプロバスケットボール業界を身近に体験された梶川三枝氏を講師に迎え、佐室会長をはじめ、正副部長有志が振興会事務所に集まり、勉強会を開催した。私的な勉強会ではあったが、来年秋にスタートするプロ新リーグの運営にとっても参考になる示唆に富んだ内容であり、これからの日本のバスケットボール業界に関心を持っておられる会員の皆様にも参考になる部分があると思われるので同氏の了解を得て書面でその概要を報告する。

講演概要

1 高校・大学時代

中学時代から本格的にバスケットをはじめ、大学時代に文化親善大使としてアメリカに行く機会があり、その際にホストファミリーにお願いしてNBAを観戦し、感動を受けました。ただ、その時はまさかNBAで働くとは思っていませんでした。

2 社会人ビジネスパーソン時代

2001年に埼玉でヤングメン世界選手権が開催された際にはチーム付のボランティアに応募、クロアチアチームのアテンドをすることになりました。その時の経験から世界のバスケットボール事情特集をしてほしいと月刊バスケットボールに投稿したところそれが採用され、冊子となりました。動くところを受け入れて下さる人があるという貴重な経験をしました。



講演する梶川三枝氏

3 会社を退職、一念発起で留学 全米・欧州でのリサーチ

2003年、オハイオ大学大学院スポーツ経営学科に願書を出し、教授に面談、エッセイを提出し、無事入学が認められ、1年間はマーケティングを中心に学びました。オハイオ大は全米初のスポーツマーケティングの大学院なのでスポーツ界の重鎮を多く輩出していたことで有名です。同大学ではバスケットボール部に押しかけ、シーズン中にシュートマップ作製等のチームのお手伝いをしました。

その後、リサーチのため、全米各地、欧州を飛び回り、フライト数は50回を超えるほどでした。2003年冬には「世界初のヤング・ウーマン世界選手権の運営」をテーマに、2004年の夏にはベネチアで行われたBasketball Without Borders（欧州各国のトップレベルの高校生選手の交流キャンプ）等についてレポートしました。

4 アメリカで知ったこと

アメリカではNCAAファイナル4の試合会場外でバスケットボールの遊びができる施設があります(例:サンアントニオ)。ラスベガスでのマイケルジョーダンキャンプではNCAAのハイレベルのコーチやレジェンドコーチが3日で1万ドル以上といったかなりの高額でコーチクリニックを行い、その収益を寄付するといったことも行われています。その背景には「スポーツは社会貢献をしないとその存在が認められない」というコンセプトがあります。

教授の推薦でミシガン州のデトロイトを本拠地とするピストンズのコミュニティリレーションズ部でインターンを経験し、社会をよくするためにスポーツの知名度をどう生かしていくかについての実践を学びました。例えば、「ミシガンヒーロー」といった形でバスケットボールと関係ないことでもコミュニティにとって良い行いをしたファンを、試合のハーフタイムを利用してコート上で表彰することもやっています。

NBAに関わる各種の社会活動に参加する子供たちのキラキラと輝く目、NBA選手たちのコミュニティへの献身的な貢献を目の当たりにし、本当に心が洗われる思いがしました。

このような活動を通じて自分がみたのは、アメリカでは人々がバスケットボールを活用して「社会を変える」さまでした。

5 Next Big Pivot ～グローバルバスケットボール界での経験から～

日本に帰国後、「スポーツのチカラ」の新しい使い方を日本に伝え、コミュニティを作り、行動に繋げていくためのプラットフォームを作りたいと考え、2010年に「Sport For Smile」を立ち上げました。詳細は拙著に譲りますが、これを「スポーツを通じ、社会変革を推進するプラットフォーム、人と人あるいは組織をつなぐ機会と場所を提供する機構」と説明しています。

私が日本バスケットボール界にとって必要だと考えているのはマーケティングです。NBAでは、Basketball Operations (ゲーム運営) と Business Operations (営業・エンタープライズ機能) がはっきりと分かれています。プロスポーツを継続させるためのしくみ(ビジネススキーム)を維持していく運営会社のスタッフは、一般企業と同じ広報やマーケティング、ファイナンスのスキルや経験のあるビジネスパーソンであり、バスケット選手ではありません。そこが、日本では混同されている気がずっとしていました。

例えば、月刊バスケットボールの記事にも書いたように、NBAは自分たちのファンのことを非常によく研究しています。そのコミュニティ内のマーケット全体より、自分たちのファンがよりファーストフード好きだとか、インターネットをより長く使っているとか、について非常に詳しく調べています。そして、そういうデータを各企業にもっていき、その企業がアリーナで広告を出すことの価値を実際の数値で示した上で、スポンサー契約をしているのです。

日本は社長を知っていると、スポーツを応援したいというシンプルな理由でスポンサーになることが多いように感じています。それはそれで大切な部分でもあります。経営的に持続可能ではないです。各企業のビジネスにとってどれだけ有益なのか、それが提示できてこそ初めてプロスポーツチームと言えるのだと私は考えています。

私がNBAで貴重な経験をさせていただいてから、もう10年以上もたってしまいましたので、これからは若い方にどんどん海外で経験をさせていただきたいと思っています。

講師略歴

名古屋大学文学部卒業後、旅行会社に就職、その後、パリに語学留学、長野オリンピック通訳、国際会議運営会社等を経て、2003 年オハイオ大学大学院スポーツ経営学科留学、NBAデトロイトピストンズのコミュニティリレーションズ部にインターンとして採用され、スポーツ経営学修士号取得。

2006 年に帰国し、世界バスケットボール選手権でVIP対応、2007 年からは東京オリンピック・パラリンピック招致委員会に勤務。2010 年にはスポーツの持つ力をよりよい社会づくりに役立てることをミッションとした株式会社 Cheer Blossom を設立、スポーツを通じ社会変革を推進する日本初のプラットフォーム Sport For Smile を立ち上げ、代表を務める。



振興会事務所での勉強会風景



モーゼになる日

油井 康

2014年2月、横浜カップ越谷大会に出場したときの懇親会で、振興会理事長の渡辺誠さんから「代々木の交歓大会に出場しませんか」とお誘いをいただいた。

代々木は、私たち地方のバスケット人のいわば『聖地』であり、齢80歳になんなんとする私にとって、財産分与、遺言等と同じ『終活』の一つであり、一も二もなく参加の約束をした。

そして今年6月、胸に一物、手に荷物、意気揚々と上京し憧れの代々木第二体育館に来てみたら、横浜カップや八幡カップ大会でお馴染みの、渡辺時男さんと同じ千葉COKICOKIチームに加えていただき、念願の代々木のフロアーに立つことができた。

渡辺時男さんとは八幡カップ沖縄大会で、渡辺ジャパンと一緒にプレーし私が3ポイント、時男さんがブザービーターの3ポイントフックシュートを決めて琉球テレビに放映された仲であり、楽しいゲームをすることができた。

振り返ると私のバスケット熱は高校生時代、当時の教育大学の名選手のコーチングを受けてからのものであり、つれあいにも『死ぬまで下がることのない知恵熱』と諦められている始末だ。

今回チーム出場のほかに、オーバー70のチーム編成での試合にも出場することができ、3ポイント、カットインシュートの5得点で怪我もせずに試合を終えることができた。

この話を地元に戻っていつもの仲間に自慢したら、私も『聖地』でシュートをしたいと言い出す者が増え、振興会にお願いして岩手マスターズで出場するようにしたい。

今年は私の後輩である岩手出身で千葉在住の三浦真造君を引入れ優勝を合言葉にSOSチームに立ち向かったが、所詮灯籠の鎌、合同練習の全くない急造チームの哀しさかな、手もなく一蹴された。

次の試合は旧友渡辺時男チームとの対戦である。試合開始の挨拶の時渡辺さんが「油井さんがシュートをするとき、ディフェンスはしないよ」と言った。年寄り扱いしやがって（年寄りには違いないが）。越谷の横浜カップのとき、横浜の川戸君が私にマッチアップし、3ポイントを打ってくださいとマークをはずしてくれたことを思い出した。

折角のシュートはマークをかいくぐって決めたい、と思うのはシューターの本能であり、「俺にもプライドがある。痩せても枯れてもディフェンスなしのシュートなんかできるか。」と思ったものだ。

試合を終え帰りの列車の中で、天下に名だたる往年の名選手と対戦したこと、『いつかは』と若いころから思い描いていた『聖地』代々木第二体育館でのシュートに興奮し、大いに盛り上がった。

話題の中で直前まで岩手県平泉町の町長として活躍し、平泉の文化遺産登録を成し遂げて退任したばかりの、菅原正義君がのたもう（宣う）た。

——— 油井さんがシュートするときは『モーゼの十戒』状態になる ———

若いころ見たハリウッド映画『十戒』は、主演のチャールトン・ヘストンが扮するモーゼが十戒を唱えると海が大きく割れ、立ち向かう敵軍はすべて海水に流され、難なく渡海することができたあのスペクタクルシーンが蘇った。

一茶の俳句にこんなものがある。

『すずめの子 そこのけそこのけ お馬が通る』

皆さんのいたわり、思いやりの中でバスケットボールを続けることができているんだと、改めて痛感し感謝した一日であった。

それでもマークをかいくぐってクリーンシュートを決めたいと思うのは、身の程知らずの誹りを受けるだろうか。

[岩手県奥州市岩手マスターズ最長老]



会員だより



バスケットボール湘南だより（その 12）

◇◇明るい火種が見えたか？これからの日本バスケット界◇◇

中瀬 達雄

◆FIBA タスクフォースの残したもの◆

「湘南だより」だが、国際大会からトップゲーム開幕の時期に、触れないわけにはいかない。

▽中身はともかくマスコミ量は増えたか？

本当に残念なことだが、今年の前半すなわちタスクフォースが活動している期間のマスコミ報道量は、昨年までのものに比べると明らかに増えていた。筆者が住む神奈川県では、東芝・富士通・bj 横浜の本拠地であることからか、地元の神奈川新聞スポーツ欄のバスケット記事は、中央3紙のものより倍以上の多さだった。

これが、FIBA 制裁がらみだけのもので、一騒ぎが終わると元の木阿弥ではあまりにも淋しく悲しい。あまり強くなくてもマスコミ受けするバスケット界になって欲しいものである。

▽アジア予選では好成績を残したが・・・

8月の女子アジア選手権の決勝戦では、素晴らしい展開で予想以上の大差で地元中国を破っての2回連続優勝には、涙が出るほど嬉しかった。海外遠征もできない悪環境の中でこの成果は、内海ヘッドコーチ以下のチーム全員の努力の結実以外の何ものでもない。

9月の男子の方は、結局18年ぶりの4位に終わったが、来年のオリンピック最終予選の出場権を確保したことは、前回の7位から見れば大きな前進と言える。

いずれも、多少の刺激はあったとしても、今回の制裁騒ぎやJBA新体制の成果と言う訳ではないと思う。これまでの地道な努力の積み重ねの結果だと信じたい。

11日(日)午前のテレビショーで、男子アジア予選のフィリピン戦風景や田臥選手のインタービューが放映された。川渕会長や出演者からも好意的なコメントが続いて嬉しい15分間だった。

▽観客動員が好調スタートのNBL、bjの両リーグ！！

来年度からの新Bリーグの形が発表されてから、最後のNBL、bjリーグがスタートした。制裁の最大原因だった分裂リーグの改革が、今回の大騒ぎの最大成果物とすれば、少なくとも今年度のトップリーグの課題はより多くの観客を呼ぶということではないだろうか。

そこで、今シーズン第1、2週の両リーグゲームの観客数を数えてみた。

【bj】は、第2週までに殆どのチームがホームを終えたので、各チームの観客動員力を並べてみた。Bリーグ1部予定チームが、次のとおり上位を占めている。

[各2試合の平均]①仙台 3357、②新潟 3334、③秋田 3205、④横浜 2605、⑤滋賀 1760

ちなみに (1) 沖縄Hなし、(2) 平均1ゲーム 1593人(46ゲーム)、

【NBL】は、昨年のデータと比較できたが、平均40%アップは大変嬉しい数字である。

	12G 平均	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
2015-16 年	2207 人	札幌 5383 人	千葉 4813 人	千葉 4415 人	2822 人	2164 人
2014-15 年	1530 人	2815 人	2377 人	2130 人	2048 人	1437 人

N B L 開幕第 1 週の 12 ゲームの観客数

特に札幌で 5000 人を越えた観客はトップリーグでは特筆すべきバスケ情報と言える。

◆ゾーンディフェンス禁止の功罪は◆

▽日本バスケット強化弊害トップはミニバス・ゾーン？

日本の強化策のトップに挙げられた「ミニバスのゾーン禁止」だが、90%がゾーンなど不正確な情報もあるようだ。FIBA ミニバス規則に違反なら止むを得ないが、これが日本バスケット停滞の第一原因と言われると、ミニバス関係者として釈然としない思いもある。

▽ミニバス界は上も下も大騒ぎ

ミニバス界では、日本連盟、県連盟でいろいろな動きが急となり、さらには地区連盟では既に動いている試合のコートサイドで「あれはゾーンだ！」などの声が飛び交っている。本来、立ちんぼで消極的なディフェンスであるゾーンを排除しようと言うのに、積極的でもゾーンプレスはいけなくなると、頭を傾げたくなる。

スポーツの世界でもビジネス界と同様、技術屋さんは細かい所に目が向きがちで、大筋を見誤るようなことは避けて欲しい。この問題の根本的な目的を忘れないでいただきたい。

◆もう一つの明るいバスケ話題・車椅子アジア大会◆

▽車いすバスケ大会に観客 3700 人！

9 月 13 日(日)に、平塚での定例開催になった「全国選抜秋季車椅子バスケ大会」の際に誘われていたので、10 月 14 日にアジア予選会観戦に出かけてみた。ネットによると初日の土曜日の観客が 2160 人、翌日が 3365 人と言う人気ぶりだそうで、そんな車椅子大会を楽しみに、千葉ポートアリーナへ向かった。さすがこの日はウィークデイで 1000 人足らずだったが、男子がアラブ首長国連合に大勝するゲームを観て満足できた。予選リーグ 2 位の日本が、韓国との 3 位決定戦でリオ・パラ出場権をかけた再戦の情報を胸に、気持ち良く帰途についた。



▽韓国を破り第 3 位、リオへ滑り込みセーフ

韓国との 3 位決定戦のある大会最終日は、地元で中学校新人大会のため家を空けたが、帰宅して見た夕刊一面に、大きなカラー写真と共に「車いすバスケ男子、リオへ」とあった。

男女ナショナルチームの朗報の後、ラグビー・ニュースで消えかかっていたバスケの灯が、また明るさを取り戻したようだった。ちなみに、この日の観客は 3666 人だった。

(神奈川県ミニバスケットボール連盟会長・平塚協会名誉会長)



38年間の高校教員生活を終えて（その5）

須田 武志

教員生活最後のチーム——新人戦の緒戦敗退

定年退職で最後となる年のチーム、38年間の総決算のつもりで一泡吹かせてやろうとあつかましい思いを心に抱いて、近くの高校の体育館で行われた12月25日の新人戦予選に臨んだものの、初日の緒戦でよもやの敗退という最悪の事態に見舞われた。

負けた理由はいろいろあるが負けは負けである。わが教員生活最後となるチームがいきなりこんな状態で敗退するとはお先真っ暗。やはり指導力に陰りが出てきたのかなあと思いつつ、チームの今後のことについて一人寂しく考えた。そしてこんな馬鹿馬鹿しいことをまで考えた。

インターハイに何回、何十回出ようが給料を上げてくれる訳でもないし、管理職に登用されるわけでもない。実際のところ滋賀はインターハイに何十回出てもそういう恩恵はない。勤務時間後や土日祝の勤務時間外の活動は一体何だったのだろうかという思いすら出てくる。さらにこのチームは私の教員生活最後のチームであるとはいえ、もう勝たなくてもいいのではと否定的な考えに陥ってしまった。そのとき「お前は37年間何をやってきたのか！」と天からお叱りの声が聞こえてきた。いろいろと考えた挙句、結果はどうなってもいいから残り1年間何も考えずなりふり構わず馬鹿になって、ただがむしゃらにやって行こう、人に何を言われようともそう結論づけた。

しかしいくら指導者の自分が一人頑張ってみても、練習や試合をするのは生徒の部員である。その部員が私のように明日からの練習に耐えて出てくるだろうか？指導者が頑張っても「糠に釘を打つ」ようなもので、何の手ごたえもないのではないか。部員は全員とまではいなくても、特に2年生は12名のうち半分以上は半年先を見越して辞めてしまうのではないかという思いが頭をよぎってくる。部員が半分以上辞めていくのではないかという思いの外に、次に公式戦があるのは半年先の来年の6月であり、この公式試合がインターハイ予選である。半年間まったく公式戦がないときたらモチベーションなど上がるはずもない。今から来年6月までの半年間をどのように過ごすか、今回のことは経験のないことなので非常に戸惑ってしまった。

翌日身の細る思いで体育館に顔を出した。コートには部員全員が顔を出していたし、誰一人辞める者はいなかった。しかし過去の経験からすれば今の状態は半年間持たないだろうし、半年の間に部員は次々と辞めていくに違いない、そういう気がしてならなかった。

次の問題は半年間の練習内容の策定だった。何をどのように指導すればよいのか、皆目わからない。とりあえず冬季ということもあり、半年間公式戦もないので体力づくりを最優先に練習メニューを考えた。

○体力づくり ○基礎基本練習 ○メンタルトレーニング ○その他

とにかく公式戦がないので試合の作戦のことは何も考える必要がないから楽といえば楽である。体力づくりや基礎基本練習などが徹底してやれるというメリットはあるが、このままでは6月のインターハイ予選に優勝できるという自信はなく、負けることの確率の方が高い。

春先になってポツポツ県外のチームと練習試合を重ねたり、過去の栄光に慕って他府県の強豪校に対戦をお願いしたりするうちに少しずつチームとしての形ができてきた。不思議なことにこの時点で部員を辞める者は一人もいなかったし、このことは8月の高山インターハイまで続いた。10年か20年経ったら当時の部員になぜ辞めずに頑張ったのかを聞いてみたい。

長い暗黒の時期が過ぎて6月に入り、教員生活最後のインターハイ予選がやってきた。今までは組み合わせ四隅のどこかに入っていたので自チームの居場所が簡単にわかったが、今回は弱いチームだったのでどこに入っているのか探すのに一苦労した。一回戦からの組み合わせだったので試合が多くできて、部員に場数を踏ませるのに好都合でもあった。そして大切な作戦は使わずに、かなり弱いと思われるチームとも意識的に接戦を演じたので、他校の指導者に膳所高校はたいしたことではないと油断させるに十分だった。

とうとうインターハイ予選の決勝戦の日がやってきた、会場は近江八幡市のサンピリッジ体育館、相手は瀬田工業だった。案の定相手は完全に罠に嵌まってくれ、59対48のスコアで勝利した。教員1年目（22歳）にインターハイ予選で優勝し、定年を迎える38年目（60歳）でも優勝できたことはこの上なく光栄であった。

勝因はいろいろあるが、退部した部員がいなかったこと、冬場の寒い時期に黙々とトレーニングに励んだこと、基礎基本練習をみっちりこなしたことがあげられ、時間をかけて基本練習に打ち込めばあとのチーム練習は比較的簡単に済むということが証明された。

つまり目先の勝利にだけ目を奪われてしまうと、一番大切な最後の試合で負けてしまうことがあり、私の教員生活最後の「作品」である部員たちの進路もそれに似て立派であった。定年退職して早15年、いまだに母校が全国大会に出場できていないことが残念である。

38年間の思い出

振興会の担当者からの依頼を受けて、38年間の指導者生活の思い出を振り返ってみたとき走馬灯のようにいろいろなことが思い出された。書きたいことは次から次へと出てくるけれども、取り敢えずこの辺りでペンを置きたいと思います。思い出は尽きない。

○部員を一度もリクルートしたことがなかったし、したくてもできなかった。

○38年間の教員生活で、19回インターハイに出場できた。インターハイ予選の決勝戦進出、または決勝リーグに残ったのは29回。

○教師1年目（22歳）でインターハイ予選に優勝し、定年を迎える38年目（60歳）でもインターハイ予選で優勝することができた。

○近畿大会優勝2回、全国大会ベスト8が指導の限界だった。

-
-
- 昭和46年(1971)の第1回全国高校選抜優勝大会の準々決勝で憧れの代々木第二体育館で試合をすることができた。
 - インターハイへ行くのに、三条、福島、仙台、東京へと鈍行列車を利用して往復した。
 - 毎年4月になると卒業生が高校時代に使用した古い参考書を持参してやってくる。練習後の更衣室でそれらを奪い合う風景が実に懐かしい。
 - 強いチームのときは外のランニングの際に雨は降らず、降っていても直前になると不思議と雨がやんだり、走り終わった直後から雨が降り出したりする。台風も練習のない日に来たりするから不思議であった。弱いチームのときは全く逆の現象が起きる。
 - 滋賀教員チームで18年間プレーし、全日本教員大会に連続出場、その間10年間滋賀教員チームの主将を務めた。
 - 男女チームを教えていたとき秋の新人戦で男女ともに優勝した。
 - 秋の新人戦、女子部員5名で試合に参加、準々決勝で3名が5反則して2名となったが、それでも試合に勝ってベスト4に残った。
 - 夏の福岡インターハイ、暑さ対策と思って窓を閉め暗幕を張りストーブをつけて練習を積んで出かけたが、会場の九州電力体育館は冷房完備でがっかり。
 - 滋賀のバスケット発展のためと思い、多忙中1971年に滋賀で初めてミニバスを立ち上げ、翌年にママさんチームを作った。ミニバスのチームを連れて全国大会に6回出場。
 - 勉強と部活動との両立だけでも大変なのに、早朝の新聞配達をしていた部員が3名いたが、それを知ったのは彼らが卒業してからだった。
 - 神戸インターハイで1回戦、2回戦ともに延長戦となり共に勝つことができた。
 - 能楽師(シテ)として活躍しているインターハイ出場経験がある卒業生がいるが、東京芸術大学を卒業し現在でも京都でシテとして活動している。
 - 38年間進学校に勤めて思うに、生徒は日常的に睡眠不足でなかなか太らない。モヤシとまでは言わないがか細い体の卒業生が一浪して大学に合格すると、まるで白豚のように丸々と太っている姿に毎年驚く。
 - 6月のインターハイ予選で敗退すると翌年2月の大学入試まで受験勉強に少し期間がある。勝つと8月のインターハイまで活動するので受験勉強の時間が減るが、結果的にインターハイに出場した時のほうが部員の進学率が高い。毎年のことながら6月に敗退したとき浪人が多く、インターハイに出場できたときに進学率が良いのは不思議だった。

現在私は10個のボランティアに関わりバスケットボール関係ではスペシャルオリンピック滋賀の指導をしている傍ら、京都にある大学男子バスケット部を教えに行っている。ある日その大学のOBがやってきて勝手に指導してもらっては困るとのクレームをつけられたが、指導者がいないチームをよくするため、負けずに飽きずに出かけている。バスケット以外では保護司を15年間、飲酒運転防止インストラクターの業務をやったりしている。拙文を長期間掲載いただき有難うございました。

[元滋賀県立膳所高校監督]

熱中症予防声かけで表彰される

環境省ひと涼みアワード2015

[総務部]

環境省が主管する熱中症予防事業に振興会が貢献したことに対して、このほどスポーツ部門「優良声かけ賞」の表彰状が授与された。

これは環境省が推進する「ひと涼みアワード2015」にエントリーした全国612団体から選ばれた85団体の活動に対して授与されたもので、振興会が6年前から高齢者の熱中症予防に貢献することを目的にして取り組んできたことが評価されたもの。

振興会では主にシニアバスケットを中心に熱中症予防のため水分の補給や、熱中症に関心を持ってもらうため、環境省が提案した声かけ運動を続けたことに対する表彰である。

9月30日に行われた表彰式には、全国各地から多くの団体が出席したが、バスケットボール関係団体が表彰されたことは初めて。

式典では渡辺理事長が振興会を代表して表彰状を受け取った。



振興会は、具体的運動として環境省が提案した熱中症予防の声かけプロジェクトに協力するため、代々木第二体育館で開催される全国シニア交歓大会を始め、ホームページなどでも宣伝する作戦を行ってきたが、代々木第二体育館のシニア大会時にはこのプロジェクト担当者が視察に訪れ、振興会の運動の実態調査もされている。

大きな行事ではないものの日頃できる範囲で、高齢者などに対して地道な声かけ運動を続けてきたことが今回の表彰につながったもの。

NBL・TKbjリーグ交流戦

DREAM GAMES は NBL が圧勝

[編集部]

9月13日、川淵会長の提案によるJBA主催の2リーグ対抗戦が大田区総合体育館で「DREAM GAMES」として3643名のファンを集めて開催された。この夢の対決は来年度からBリーグとして合併されるNBLとbjリーグとの共同企画であり、昨シーズン優勝・準優勝チーム同士が対戦した。

この交流戦は、今シーズン開始前で、bjリーグ勢には不在の外国人選手が居り、また9月23日からのアジア選手権大会を控えた時期でもあって、チームに準備不足の感がみえた。しかし、ゲーム自体は、優勝チーム同士の試合で逆転の展開があり、会場が大いに盛り上がった。また、第2試合の前には大田区長とリオ・オリンピック出場を決めた女子日本代表の間宮選手による挨拶が花を添えた。

競技規則の異なる両リーグの対戦のため、FIBAルールを基本とするが、ボールは前後半それぞれで各リーグのオフィシャルサプライメーカーのボールを使用した。その他、主な点は、審判がレフェリー（1名）とアンパイア（2名）とを各リーグで分担し、2試合でその分担を交代した。また、オンザコートの外国籍選手の出場は各リーグのルールに従った。

第1試合はトヨタ自動車アルバルク東京（NBL、以後トヨタ自動車）vs 秋田ノーザンハピネッツ（bjリーグ、以後秋田）、第2試合はアイシンシーホース三河（NBL、以後アイシン）vs 浜松・東三河フェニックス（bjリーグ、以後浜松・東三河）であった。

試合結果

トヨタ自動車アルバルク東京 ○ 98 - 66 ● 秋田ノーザンハピネッツ
アイシンシーホース三河 ○ 83 - 73 ● 浜松・東三河フェニックス

参加の4チームともに来年度は1部リーグで対戦することになるが、お互いに相手の戦力が確認できた有意義なゲームであった。結果的には、NBL勢の厳しいディフェンスがbjリーグ勢を圧倒して勝利に貢献していた。

第1試合ではトヨタ自動車の積極的な攻勢に秋田が意気消沈とした姿を見せ、第2試合ではbjリーグ浜松・東三河は3点シュートを武器にアイシンによく健闘したが最後に力尽きた。第1試合後、bjリーグ秋田の長谷川HCから会見席上で「NBLがbjリーグよりはるかに上である」との言葉があった。企業チームには優れた選手が多いので納得できるが、bjリーグチームはチームおよび選手の更なるレベル向上を目指してNBLチームを凌駕してほしいもの。

bjリーグチームには、この大会結果を糧にしたチーム強化で、来シーズンのBリーグで上位争いに参加して大会を盛り上げることを期待したい。

トップリグ 2015-2016 シーズン開幕

〔編集部〕

去る１０月初旬から男女とも日本のトップリーグであるＮＢＬ、ＴＫＢＪリーグ、及びＷＪＢＬのレギュラーシーズンが開幕している。各リーグの今シーズンの所属チーム名と開催期間を含む主な情報を下記にお知らせする。男子は来季からＢリーグに統合されるので、最後のシーズンとなる。紙面の都合で日程の詳細を掲載できず申し訳ないが、皆様方には是非観戦に足を運ばれ応援で会場を大いに盛り上げて頂きたい。

N B L

所属チーム (12チーム)

- ・レバンガ北海道
- ・リンク栃木ブレックス
- ・日立サンロッカーズ東京
- ・東芝ブレイブサンダース神奈川
- ・三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋
- ・広島ドラゴンフライズ
- ・サイバーダイニングつくばロボッツ
- ・千葉ジェッツ
- ・トヨタ自動車アルバルク東京
- ・アイシンシーホース三河
- ・西宮ストークス
- ・熊本ヴォルターズ

レギュラーシーズン開催期間 2015 年 10 月 9 日（金）～2016 年 5 月 8 日（日）

レギュラーシーズン大会方式

- ・レギュラーシーズン 全試合数 330 試合 1 チームあたり 55 試合
- ・12 チーム 5 回戦総当り戦 (※カンファレンス制度の廃止)

プレーオフ出場チーム レギュラーシーズン上位 8 チーム

プレーオフ開催期間

- ・クォーターファイナル(QF) : 2016 年 5 月 14 日 (土) ～5 月 16 日 (月)
 - ・セミファイナル(SF) : 2016 年 5 月 21 日 (土) ～5 月 23 日 (月)
 - ・ファイナル(F) : 2016 年 5 月 28 日 (土) ～5 月 30 日 (月)
- 6 月 4 日 (土)、 6 月 5 日 (日)

プレーオフ大会方式

- ・クォーターファイナル(QF) : 3戦2戦先勝方式
- ・セミファイナル(SF) : 3戦2戦先勝方式
- ・ファイナル(F) : 5戦3戦先勝方式

オールスターゲーム

- ・日程： 2016 年 1 月 17 日（日）
- ・会場： 川崎市とどろきアリーナ（神奈川県川崎市中原区等々力 1-3）

TKbjリーグ

所属于一ム (24于一ム)

イースタン

- ・青森ワッツ
- ・岩手ビッグブルズ
- ・秋田ノーザンハピネス
- ・仙台89ERS
- ・福島ファイヤーボンズ
- ・新潟アルビレックスBB
- ・富山グラウジーズ
- ・信州ブレイブウォリアーズ
- ・群馬クレインサンダーズ
- ・埼玉ブロンコス
- ・東京サンレーヴス
- ・横浜ビー・コルセアーズ

ウェスタン

- ・金沢サムライズ
- ・浜松・東三河フェニックス
- ・滋賀レイクスターズ
- ・京都ハンナリーズ
- ・大阪エヴェッサ
- ・バンビシャス奈良
- ・島根スサノオマジック
- ・広島ライトニング
- ・高松ファイブアローズ
- ・ライジング福岡
- ・大分・愛媛ヒートデビルズ
- ・琉球ゴールデンキングス

レギュラーシーズン開催期間 2015 年 10 月 2 日（金）～2016 年 4 月 24 日（日）

レギュラーシーズン大会方式

- ・レギュラーシーズン 全試合数 624 試合 1 チームあたり 52 試合
- ・競技ルールの変更 新リーグ（Bリーグ）移行に伴い変更

プレーオフ出場チーム 各カンファレンス上位 8 チーム 計 16 チーム

プレーオフ開催期間 (出場チーム決定ののちにお知らせ)

プレーオフ大会方式 トーナメント

- ・各カンファレンス : 1-8 位、4-5 位、3-6 位、2-7 位
上位チームのホームで2戦先勝方式
- ・カンファレンスファイナル : 東京開催一発勝負
- ・ファイナル(決勝戦)&3位決定戦 : 東京開催一発勝負

オールスターゲーム

- ・日程： 2016 年 1 月 24 日（日）
- ・会場： ゼビオアリーナ仙台（宮城県仙台市太白区あすと長町 1-4-10）

WJBL (Wリーグ)

所属チーム (11チーム)

- ・ J X-E N E O S サンフラワーズ
- ・ デンソー アイリス
- ・ シャンソン化粧品 シャンソンVマジック
- ・ トヨタ紡績 サンシャインラビッツ
- ・ 新潟アルビレックスBB ラビッツ
- ・ 日立ハイテク クーガーズ
- ・ 富士通 レッドウェーブ
- ・ トヨタ自動車 アンテロープス
- ・ 三菱電機 コアラーズ
- ・ アイシン・エイ・ダブリュ ウィングス
- ・ 羽田 ヴィッキーズ

1次ラウンド開催期間 : 2015年10月9日(金)～2015年12月20日(日)

1次ラウンド大会方式

- ・ 11チーム2回戦総当たり戦

2次ラウンド開催期間 : 2016年1月23日(土)～2016年2月7日(日)

2次ラウンド大会方式

- ・ 1次ラウンド上位5チームの上位リーグと下位6チームの下位リーグに分割
- ・ 各リーグで1回戦総当たり

プレーオフ出場チーム

- ・ 上位リーグ5チームと下位リーグの上位3チーム 計8チーム

プレーオフ開催期間

- ・ クォーターファイナル(QF) : 2016年2月20日(土)～2016年2月22日(月)
- ・ セミファイナル(SF) : 2016年2月27日(土)、2月28日(日)、3月1日(火)
- ・ ファイナル(F) : 2016年3月10日(木)、3月12日(土)、3月13日(日)、
3月15日(火)、3月17日(木)

プレーオフ大会方式

- ・ クォーターファイナル(QF) : 3戦2戦先勝方式
- ・ セミファイナル(SF) : 3戦2戦先勝方式
- ・ ファイナル(F) : 5戦3戦先勝方式

オールスターゲーム

- ・ 日程 : 2016年1月16日(土)
- ・ 会場 : 新潟県長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡

訃 報

中野 富郎 氏 平成27年4月4日 享年 90

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

中野さんを偲んで

小澤 正博



関東実連や日本実連の会長、副会長を歴任された中野さんご逝去の情報が入ったのは、つい最近のことで驚いています。推測するに、ご自分の最後のことをあまり周りに知らせるなどご遺族に言い残したのではないかと考えています。中野さんは現役役員時代から目立ったことを嫌い、実力者でありながらまるで裏方さんのようにふるまわれておられました。平成25年に体調を崩されて静岡県の病院へ入院されましたが、その後退院されたとの連絡をいただいていたので、訃報を聞いたときは大変残念としか言いようがありませんでした。

中野さんは、日本大学から熊谷組へ入られてバスケットボールを続けられ、それまであまり強くなかった熊谷組のバスケットを日本の王者にまで引き上げられたことで知られる方です。現役引退後も熊谷組のバスケットボール部を支えられ、現場で活躍するスタッフやコーチの面倒を良くみられていました。

平成5年、日本のバブルがはじけて各企業が経済的に悪化する中、日本のトップクラスだった熊谷組のバスケットボール部がいち早く廃部となったときは大変残念そうでした。

厳しい状況にもかかわらず中野さんはこの時もいたしかたないことと冷静にとらえられ、その後も実業団連盟の主要な役員を続けられました。

中野さんが関東実業団連盟の会長を引き受けられていた頃、連盟の運営についていろいろと相談に伺ったことがあります。後輩の相談ごとに親身になってアドバイスをいただくとともに、裏方的にも動いてくださってそれらの解決に尽くしていただいたことが忘れられません。

一方で中野さんは、振興会の前身である実業団協力会に最初から入会され、バスケットボール界の発展に寄与されました。85歳を迎えられた頃、『バスケットの終活』かなと一つの区切りと称されて、振興会に10万円もの寄付をされています。

本誌人物抄に登場いただくためご自宅を訪問した際も、「もめ事は嫌い」「人を押しのけて前面に出ることは嫌い」と仰っていた中野さん、その温和な人柄に感銘してお暇したのも今ではうつろな思い出となってしまいました。体調を崩されて静岡の病院へ入院されていた時お見舞いに伺ったら、「大したことはないんだよ」と言って笑っておられた中野さんの顔が目に浮かびます。今頃は先立たれた奥様とご一緒に別世界でゆったりとされていることでしょう。ご冥福をお祈りいたします。

プラザ こぼればなし

- ◇ 9月20日、ラグビーで日本代表が強豪南アフリカとの接戦を最後の逆転で制して世界中から賞賛を浴びたが、その勝利の源泉は「運動量」と「素早さ」の実践にあるという記事を読んだ。これは日本の体格不足を補うに必須の条件で、バスケットボールにおいても同様、狭いコートを終始素早く走り回ることがフィジカルに勝る外国チームに対する必勝法の一つではなかろうか。ディフェンスからオフェンスへ、そしてオフェンスからディフェンスへ休みなく切替えできる素早さとその運動量は、相手を休ませることなく、隙をついてシュートチャンスをものにする最高の戦術である。この「運動量」と「素早さ」とをマスターするには選手のメンタル面での強さも必要で、選手交代の活用も有効であろう。
- ◇ 女子日本代表が、去る9月にアジア選手権大会で優勝を飾りリオ・オリンピック出場権を得たのは最近のバスケットボール界で最高のニュースである。緒戦で韓国に競り勝ったことがその後の中国戦を1点差で凌げた原動力であり、その結果、決勝では中国に完勝した。それにしても、日本が、韓国戦、タイ戦、および決勝戦を除き、第3ピリオドの得点が他のピリオドに比べて少ないのはなぜだろうか。相手チームが前半のプレーから日本の弱点を突いてきたのかもしれないが、リーグ戦の中国戦では、前半37-31の6点差が第3ピリオド終了で45-43の2点差に追い上げられ、準決勝のチャイニーズ・タイペイ戦では前半34-33に対し第3ピリオド終了で43-47と逆転されている。今後、世界の強豪に打ち勝つためにも原因究明とその改善策を望む。
- ◇ 男子日本代表がアジア選手権大会で4位に入り、オリンピック予選となる世界最終予選の出場権を得られたことも大変嬉しいニュース。この世界予選ではリオ・オリンピック出場を目指してぜひ頑張っていて欲しい。ところで今回のアジア選手権大会の負け試合のファウル数を見ると、予選ラウンド第1戦48-86のイラン戦で25個、準決勝70-81のフィリピン戦で24個、3位決定戦63-68のイラン戦で21個が記録されている。勝つために20個以内にすべくディフェンスを見直す必要がある。第3、第4ピリオドでのミスとファウル数が敗因に直結しているようだ。
- ◇ 車椅子男子日本代表がリオ・パラリンピック団体競技の一番乗りを遂げ、女子日本代表に続く嬉しいニュースで喜ばしい。この大会は本文記事にある通り、日本代表は3位でこの切符を手に入れた。最近、パラリンピックの話題が各種競技で盛んであるが、車椅子バスケットボールも日刊紙で比較的大きなスペースが割かれており、更に豊島英選手、鳥海連志選手などの記事が紙面を飾っている。このような個人紹介の記事はNBA挑戦の日本人選手や日本女子代表の渡嘉敷来夢選手に続く恰好のバスケットボール界の宣伝であり、選手諸君は是非紙面に載るよう努力して欲しい。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp



野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを

植物原料100%から生まれた
自然派の白髪染め&トリートメント

化学の力に頼らず安心して白髪を染めることが出来る。
自然界には天然の色素を持つ植物が沢山存在します。
ヘナがその代表的な植物であり、天然の染色力を持つだけでなく、素晴らしいトリートメント効果をあわせ持ちます。頭皮と髪を傷めずに美しく艶やかに染められるのが大きな特徴です。

白髪染め + 潤い・ツヤ + ハリ・コシ



グリーンノートヘナ・ヘナスーパー

オレンジブラウン ...1500円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン ...1600円+税
スーパーブラウン（早染め） ...2200円+税

オーガニータ（エコサート認証ヘナ）

ビターオレンジ・ノンカラー ...1800円+税
サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン ...2300円+税
ノンカラー ...1600円+税

株式会社 グリーンノート ☎ 03-3366-9701 詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ <http://www.henna.co.jp>

横浜中華街 世界チャンピオンの肉まん

皇朝点心舗



1個100円(税込)

※各種お土産取扱店

楽R天
YAHOO! JAPAN
第1位 第2位

世界チャンピオンの肉まん
WORLD CHAMPION
NIKKEI プラス1
なんでもランキング



皇朝レストラン

ぐるなび
2017年最優秀
食べ放題レストラン部門で
栄冠を手にした
第1位 第2位

時間無制限!

食べ放題

120種以上 1,990円~(税込)
※点心飲茶



王朝 (担担麵)



中華街初、こだわり健康担々麺! 特製ツカメ練り込み麺使用の担々麺をはじめ、
お料理 50 種以上、麵・ご飯 20 種以上、お酒 20 種以上をご用意!





BASKETBALL STREET

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、メイン通りの名を「バスケットボールストリート」とし、2012年 秋にはシンボルとなるモニュメントも設置いたしました。

5年10年と時をかけて、、、
この「バスケットボールストリート」通称「バスケ通り」
を定着させていきたいと考えています。



渋谷センター街